

本当のリーダーの役目

チームのまとめ役を任されたヒロキさんは、先輩たちに「リーダーに必要な力は何ですか」と尋ねました。

「積極性」や「判断力」、「発想力」など、さまざまな答えが返ってきました。その中で心に残ったのは、

「自分が前に立つことよりも、自分がいなくても回る集団をつくること」が大切だ」という言葉でした。中心に立つだけが役目ではないと気づいたのです。

さらに、経営者のピーター・ドラッカーは、「優れた組織は、特定の人に頼らない仕組みを持つ」と説いています。一人の力に依存すれば、その人が欠けたときに止まってしまう。本当に強い集団は、役割と流れが整っているのです。

だからこそ、仕事を一人で抱え込まないことが大切です。一人一人の得意を見きわめて任せること。そして不在のときも、誰が判断し、どう動くかを決めておくこと。それが「仕組み」を整えるということなのです。

今日の言霊：任せて育てる力

まとめ役の役割は、自分が目立つことではなく、全体が安定して動き続ける状態を整えるにある。どれほど能力が高くても、一人に負担が集まればやがて限界が来る。仕事を分担し、流れや判断の基準を共有しておけば、誰かが欠けても活動は止まらない。

周囲を信じて任せる姿勢は、仲間の力を引き出し、経験を積ませる機会にもなる。また、役割が明確であれば責任の所在がはっきりし、迷いも減る。強い集団とは、特定の人に頼る組織ではなく、それぞれが自分の持ち場で力を発揮できる環境が整っている状態である。

その土台を築くことこそ、まとめ役に求められる本当の力であり、信頼と協力を育て、長く続く関係を支える鍵となるのである。

【今回の学び】⇒小さな確認が大きな信頼を守る！



本当のリーダーの役目

チームのまとめ役を任されたヒロキさんは、先輩たち「リーダーに必要な力は何ですか」と尋ねました。

「積極性」や「判断力」、「発想力」など、さまざまな答えが返ってきました。その中で心に残ったのは、

「自分が前に立つことよりも、自分がいなくても回る集団をつくること」が大切だ」という言葉でした。中心に立つだけが役目ではないと気づいたのです。

さらに、経営者のピーター・ドラッカーは、「優れた組織は、特定の人に頼らない仕組みを持つ」と説いています。一人の力に依存すれば、その人が欠けたときに止まってしまう。本当に強い集団は、役割と流れが整っているのです。

だからこそ、仕事を一人で抱え込まないことが大切です。一人一人の得意を見きわめて任せること。そして不在のときも、誰が判断し、どう動くかを決めておくこと。それが「仕組み」を整えるということなのです。

今日の言霊…任せて育てる力

★問題一（語句の意味） 本文における「依存」の意味として最も適切なものはどれか。

- ア 互いに助け合いながら協力すること
- イ 特定の人や物事に頼りきること
- ウ 自分の力で責任を果たすこと
- エ 役割を分担して行動すること

★問題二（内容理解） ヒロキさんが心に残した言葉の内容として最も適切なものはどれか。

- ア リーダーは常に中心に立ち続けるべきだ
- イ 能力の高い人がすべてを決めるべきだ
- ウ 自分がいなくても回る集団をつくること大切だ
- エ 判断は上級生に任せるべきだ

★問題三（内容理解） 本文におけるピーター・ドラッカーの考えとして正しいものはどれか。

- ア 優れた組織は強い個人の力に支えられている
- イ 組織は特定の人に頼るほど安定する
- ウ 優れた組織は仕組みが整っている
- エ 経営者はすべてを自分で判断すべきだ

★問題四（内容理解） 筆者が「仕組みを整える」として述べている内容に当てはまるものはどれか。

- ア 仕事を一人で抱え込み責任を示すこと
- イ 全員が同じ役割を担うこと
- ウ 得意分野を見きわめ、任せ方を決めること
- エ リーダーが常に最終判断を行うこと

★問題五（記述） 本文によれば、本当のリーダーの役目とは何か。四十文字で答えよ。

【模範解答】

★問題一 解答 イ

○解説④ 依存とは特定の人に頼りきりになり、その人が欠けると機能しなくなる状態を指す語である。

★問題二 解答 ウ

○解説④ リーダーの役目は自分が目立つことではなく、自分が不在でも回る集団を築くことだと述べている。

★問題三 解答 ウ

○解説④ ドラツカーは優れた組織は特定の人に頼らず役割と流れが整った仕組みを持つと説いている。

★問題四 解答 ウ

○解説④ 仕組みを整えるとは各自の得意を見きわめ任せ、不在時の判断や動きを決めておくことを指す。

一 ☆問題五 模範解答

自分がいなくても回る集団をつくること

○解説④ 本文は本当のリーダーとは自らが中心に立つよりも不在でも機能する組織を築く存在だと述べる。

まとめ役の役割は、自分が目立つことではなく、全体が安定して動き続ける状態を整えるにある。どれほど能力が高くても、一人に負担が集まればやがて限界が来る。仕事を分担し、流れや判断の基準を共有しておけば、誰かが欠けても活動は止まらない。



周囲を信じて任せる姿勢は、仲間の力を引き出し、経験を積ませる機会にもなる。また、役割が明確であれば責任の所在がはっきりし、迷いも減る。強い集団とは、特定の人に頼る組織ではなく、それぞれが自分の持ち場で力を発揮できる環境が整っている状態である。

その土台を築くことこそ、まとめ役に求められる本当の力であり、信頼と協力を育て、長く続く関係を支える鍵となるのである。

【今回の学び】⇒小さな確認が大きな信頼を守る！